

とよ 豊
がわ 川
よう 用
すい 水



こんどうじゅいちろう
近藤寿市郎

とよがわようすい
豊川用水の生みの親であ
るこんどうじゅいちろう
近藤寿市郎さん（1870
～1960年）は、あつみぐん
渥美郡
あかばねちょう たはらしあかばねちょう
赤羽根町（現田原市赤羽根町）
に生まれました。

あつみはんとう
渥美半島に住む人々は、
水不足に困っていました。
池にためたわずかな水で
米を作り、その他の作物は、
水のあまりいらない、さつ
まいもや麦などを作ってい
ました。

こんどう
近藤さんは、1921年にとうなん
東南アジアの
インドネシアジャワ島に行って、田畑に水を
配るためのしせつ
施設を見学しました。
『ひがしみかわ
東三河にも同じように、山の中に大き
なため池を作って田畑に水を引けば、米がた
くさんとれ、いろいろな作物が作れ、人々の
くらしがよくなる。』と考えました。

こんどう
近藤さんは、きこくご とよがわ
帰国後、豊川
ようすいけいかく
用水計画を発表し、じつげん
実現にむ
けて活動をはじめました。
国会でたびたびていあん
提案し、この
あん
案がもととなり1947年（昭
和22年）、国と県によるちようさ
調査
がはじまりました。

こんどう
近藤さんの活動が実り、1949
ねん
年（昭和24年）、豊川用水を作る
工事がうれ
宇連ダムからはじまりました。
今では、とよがわようすい
豊川用水は、わたした
ちの生活に、なくてはならない大切
なものになっています。